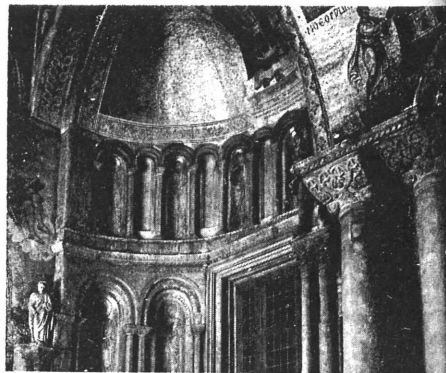


4

サン・マルコ寺院, 1063 - 94年 San Marco

最初のサン・マルコ教会は832年に建立された。976年の火事後、978年に再建された。3番目の教会である現在の教会は1063年に建設が始められ、1071年に建築の構造が出来上がり、1094年に献堂された。サン・マルコ教会は当初からヴェネツィア総督の私設礼拝堂であった。ドージェ（総督）の声明のように、共和国の政治的活動の一部であった宗教、そして宗教以外の儀式に使用されていた。それゆえ総督宮殿の大きな建築複合体の一部であり、たとえ付属の建物といっても豪華なものであった。1807年に、それまでカステッロ地区のサン・ピエトロ教会（69）にあったヴェネツィアの総司教座がここに移された。ローマ末期起源のサン・マルコ教会の建築様式は、コンスタンティノープルのハギア・ソフィア大聖堂というより十二使徒教会をモデルにしており、少し後に建設されたフランスのペリグーにあるサン・フロン教会に似ている。プランはギリシャ十字式で、中央と婦人席のロジヤによって3つの部分に分かれている十字の各腕に、半球のドームが載っている。この5つのドームは大きな角柱に載っているペンデンティブとアーチによって支えられ、それぞれの角柱では、4本の小柱がアーチとロジヤと小ドームで互いに統合されている。上部が半ドームの形になっているアプスは、その下で放射状祭室によってくりぬかれている。

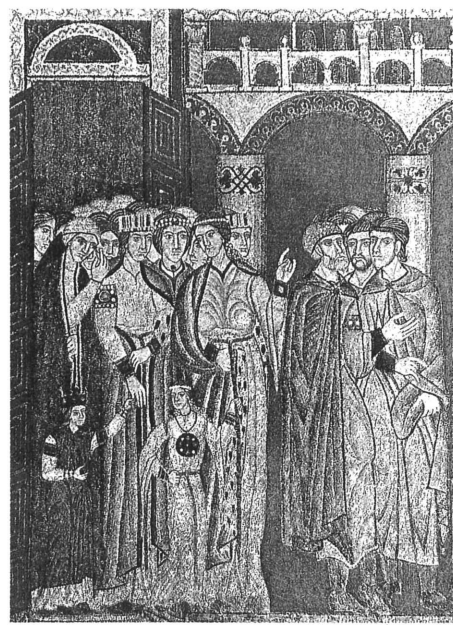
広場に面した前面の腕は、3方を前室またはナルテックスによって囲まれ、その各ベイにはアプス、ヴォールト、小ドームがついている。内部の床は3つのレベルがあり、ナルテックスは広場と同じレベルで、身廊は6段あがっており、地下聖堂がある内陣はさらに高くなっている。外観について言えば、ファサードの深いアーチが頑丈なバットレスをその中に組み入れ、両側面の開口部の無い奥行の深いアーチが、ゴシック後期に付け加えられた尖塔状装飾、葉状装飾、小尖塔をもつロジヤのよ



り軽やかな連続アーチを支えている。鉛で覆われた5つのドームは外観の形が内部と異なり、かなり高くなっている。13世紀にかぶせられたもので、ヴェネト・ビザンチン様式のみならずオリエントの影響が色濃く見られる。中央アプスのレンガの外観はトルチェッロ島のサンタ・フォスカ教会やムラノ島のサン・ドナート教会を思い起こさせ、総督の居室から見えるようになっていた。様々な国と時代の経験の積み重ねであるサン・マルコ寺院の構造と空間のもつ複合性は、類まれなる建設の力と論理をもった一つの統一された構成の中で形となって現われている。それは何世紀にも渡って次第に積み重なった、モザイクや造形装飾の非常に豊かな魅力をさらにつけ加え、形式の統一や調和はもとより、一つの都市国家の不変であることからもたらされる感動的な結果を生み出した。

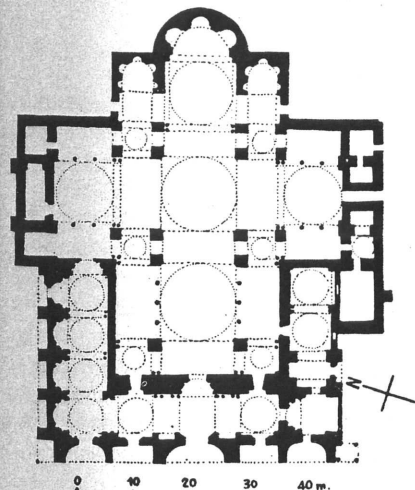


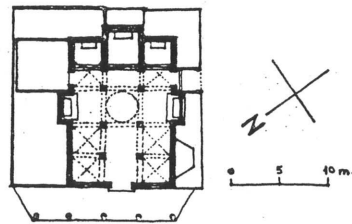
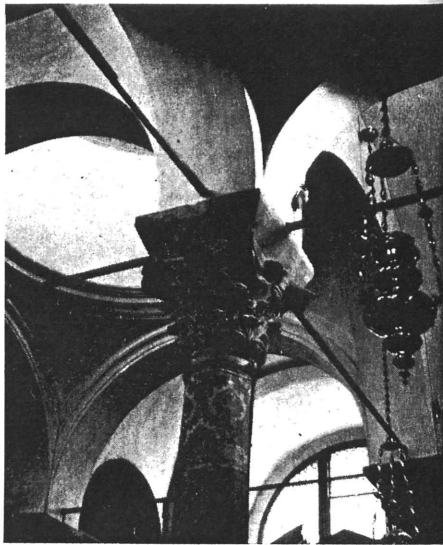
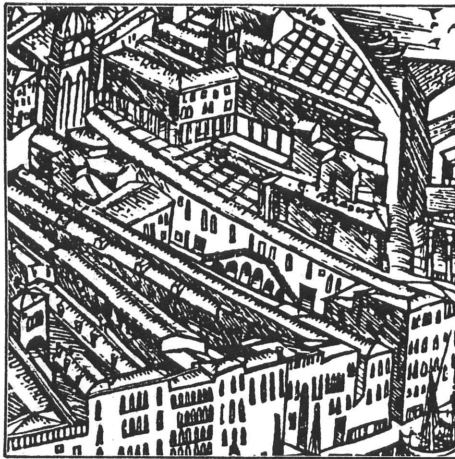
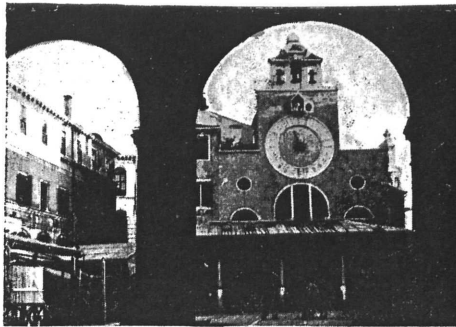
a



b

a) サン・マルコ寺院の入口。中央アーチの様々な職人を表す浮き彫りの部分、13世紀
b) サン・マルコ寺院。聖マルコの遺体発見のモザイク、13世紀



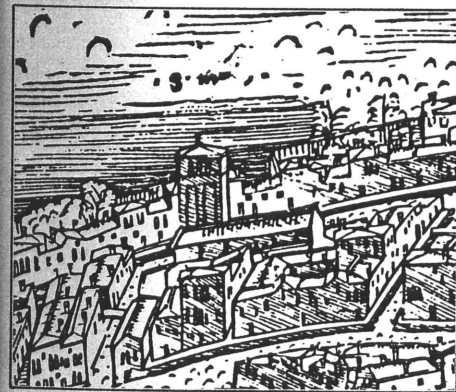


5

サン・ジャコメート (サン・ジャコモ) 教会, リアルト地区, 11世紀と16世紀 San Giacomo

言い伝えによるとヴェネツィアで一番古い教会でおそらく5世紀の建立といわれている。現在の教会はリアルト市場 (1097年) と同時代の11世紀に遡り, 1531年と1601年に修復された。様々な時代と様式の特徴が見受けられる。プランと内部空間においてはまだヴェネト・ビザンチン様式で, 少しバシリカ式とギリシャ十字式のプランが混在している。一番古い部分は, 葉の装飾の柱頭のついたギリシャ大理石の6本の円柱とおそらく中央の身廊と側廊の向かいにある小アーチである。トンネル・ヴォールトと交差ヴォールトと小さなドームの天井は16世紀のものである。外側には, 石の角柱と木のバルバカーニ (持ち送り) を備えた美しいゴシック様式 (15世紀) の小さな柱廊があり, ヴェネツィアでは唯一現存するオリジナルのものとなっている (サン・ニコロ・デイ・メンディコリ教会のものは再建されている)。ファサードの頂上にある時計塔はすでにバロックの趣があ

る。教会の周囲には庶民的な小さい建物がひしめき, リアルト市場のより広い都市のコンテクストの中に対立せずに挿入された心地よい全体の雰囲気をつくっている。

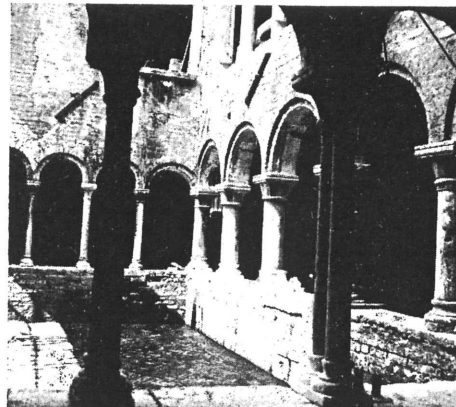


6

サン・ニコロ・デイ・メンディコリ教会, 12-16世紀 San Nicolo dei Mendicoli
教会の起源はかなり古くおそらく7世紀頃で, 12世紀に再建された。様々な時代に何度も改造されている。

3廊式のバジリカ式プランの中にヴェネト・ビザンチン様式の跡を見ることがことができる。この時代のものとしては, 力強い鐘楼の他に, ファサードの小さな連続アーチと中央アプスの部分が残っている。14世紀のゴシック時代のものとしては身廊の円柱と柱頭, 内陣のアーチ, 木材の梁をわたした側廊の天井がある。

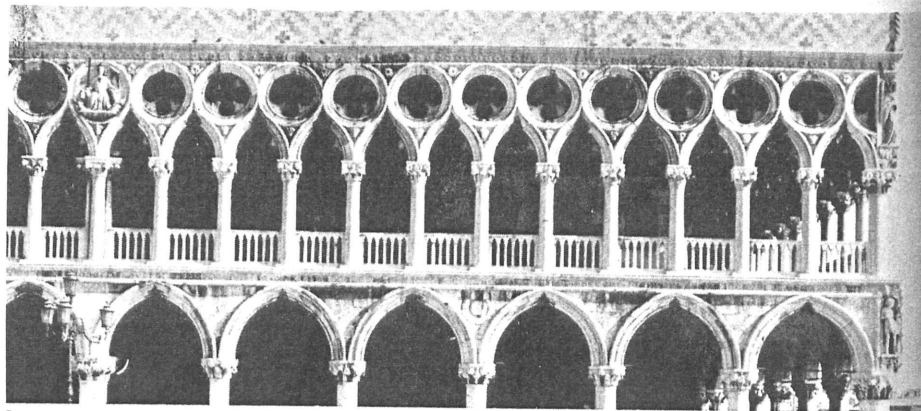
純粋のゴシック様式の要素は, 古い材料で再建された外側の柱廊玄関である。金色に彩色された木の上張りとし身廊と内陣の分離 (昔の聖像壁の記憶か?) はルネサンス時代に行われた (1580年)。側面の小さなファサードはルネサンスからとバロックへ移行する時期のもので, 一方スクラメント礼拝堂は完全にロココ様式である。種々の様式が加えられているにもかかわらず, いや多分かってそれだからこそ, この教会は定義しにくい独特の魅力を備えている。



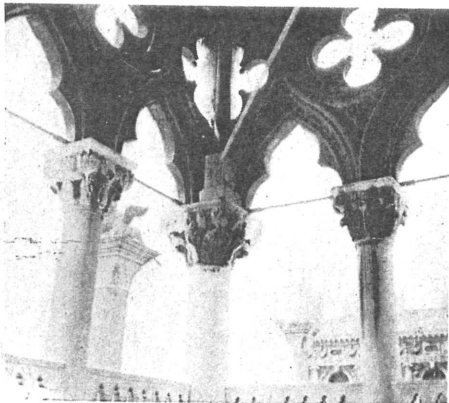
7

サンタポローニアの修道院回廊, 13世紀 Chiostro di S. Apollonia

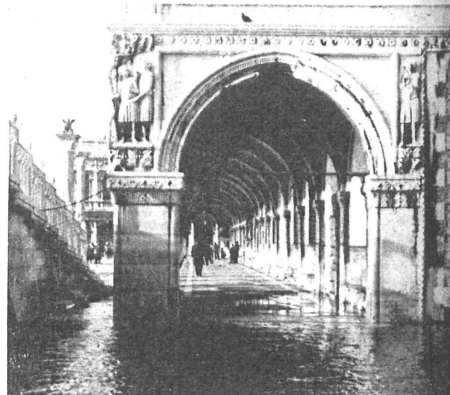
1109年建立の修道院回廊はサンティ・フィリッポ・エ・ジャコモ教会と共に, トルチェッロ島の有名なサンティ・フェリーチェ・エ・フォルトゥナート・ディ・アミアーナ大修道院に由来するベネディクト派の僧院に属していた。1472年に教会と僧院は総督府の管理下に置かれるようになり, 1810年までサン・マルコ教会の最高位聖職者の住居であった。この回廊の巡る小さな中庭はヴェネツィアに唯一現存するロマネスク様式の遺構である。2面が2本の対の円柱に, 他の2面が1本の円柱に支えられている。高さと同幅の不揃いの半円アーチが中庭を囲んでいる。後の増築で狭くなったこの回廊は最近の修復で元の広い空間をとりもどした。



a



b

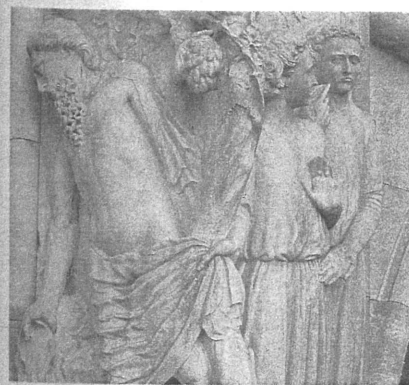


c

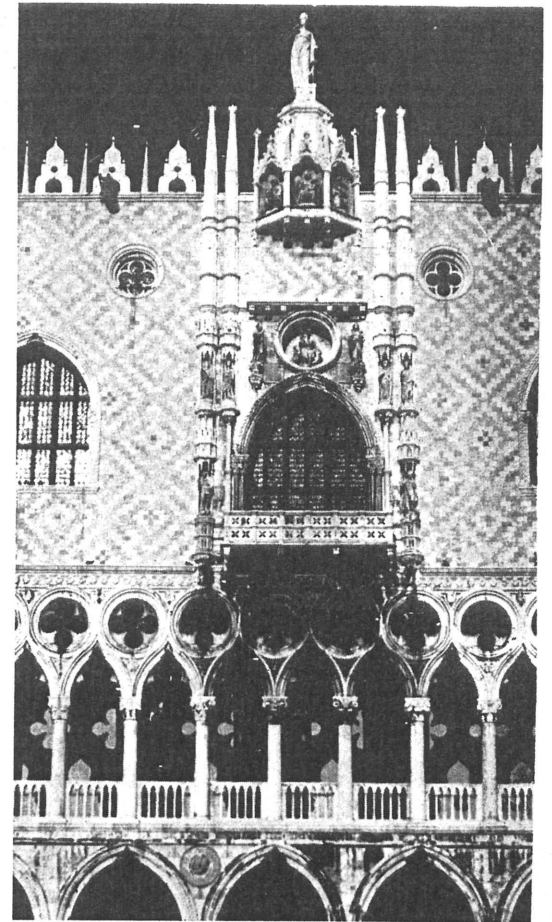
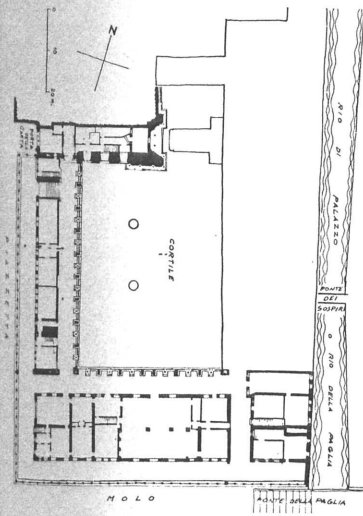
23
 総督宮殿（パラッツォ・ドゥカーレ）、1349-1441年 Palazzo Ducale

最初の宮殿の建設はマラモッコから総督たちが移って来た9世紀に遡り、現在サン・マルコ寺院の宝物室とフォスカリのアーチに組み入れられている現存する厚い壁から推測できるように強固な城塞のようであった。宮殿は12世紀に総督セバスティアーノ・ズィアーニがサン・マルコ広場と小広場を現在の姿に整備するまで何度も拡大、再建された。13世紀の建物もポルティコとロッジアを備え、同時代のヴェネト・ビザンチン様式の世俗建築と似ていたはずである。1340年から1365年の間に、岸边に向かって新しい翼が新築され、大評議会の広間が再設置された。この翼のファサードはおそらく1419年に

a) ピアッツェッタに面するファサード
 b/c) ピアッツェッタに面する角
 d) バリア橋側の角



e

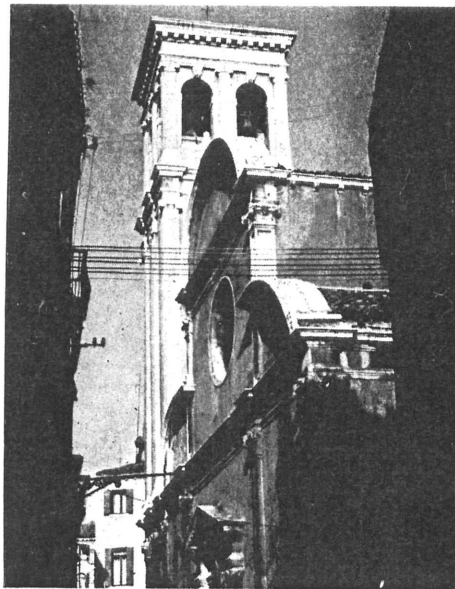


f

今日の姿に完成され、建築家であり彫刻家のフィリポ・カレンダリオの作といわれている。ダッレ・マゼーニ兄弟の中央の大窓は1404年作。総督宮殿は1424年に元のヴェネト・ビザンチン様式の建物を壊した後に、同様のゴシック様式でピアッツェッタに面する北側へ拡大された。ゴシックの部分はサン・マルコ寺院よりの装飾的なカルタ門（1438年—41年）で完成された。岸边に面する71.5mの柱廊に17のアーチ、後にできた小広場に面して75mの柱廊には18のアーチがあり、2倍のアーチと4つ葉模様の円形装飾を持つ2階のロッジアの上には、14の大窓が穿たれた大きな壁面がとられている。こ

のようなファサードの調和のとれた表現は、ロッジアの連続と外部空間に向けて軽やかな開放空間をとるヴェネト・ビザンチン様式や、空白と充満のコントラストが興味深いゴシック教会の中央身廊などの宗教建築、ゴシックやオリエント芸術の豊かな造形装飾と多色の表面仕上げの全経験から着想を得ている。総督宮殿のポルティコとロッジアは広場の他の建物と一体となり、建築的にも、都市的にもユニークな複合体を形成している。このようにして回廊のめぐる広場であるギリシャのアゴラや古代ローマのフォーラムの市民の伝統を再生している。（ルネサンス部分については50を参照のこと）

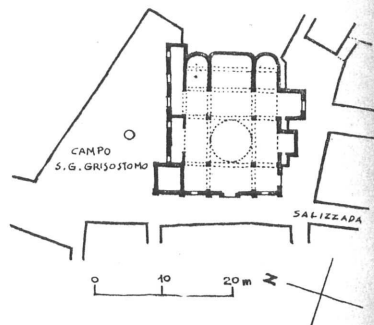
e) バリア橋側の総督宮の角にあるフィリポ・カレンダリオによるノア
 f) 岸側のファサード



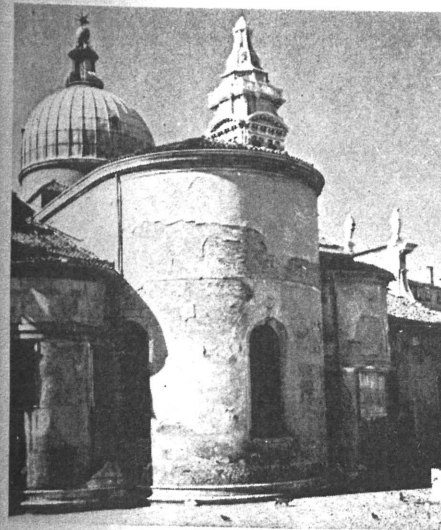
43

サン・ジョヴァンニ・グリゾストモ教会, M. コドゥッチ, 1497 - 1504年 San Giovanni Grisostomo

1497年から1504年にかけて建設された最後のコドゥッチ作品で、1525年頃に装飾部分が完成した。曲線屋根を持つファサードは他のコドゥッチ作の、サン・ミケーレ教会(41)やサン・ザッカリア教会(42)を思い起こさせる。一方、プランは15世紀の建築理論家に生まれ、もともとはビザンチンに由来する正方形のギリシャ十字式である。中央には支柱とアーチで支えられたドームがあり、ヴォールトのかかった腕部の間の4隅にもそれぞれドームが乗っている。建物全体は模範的に調和がとれ、明快である。内部空間は、増築されたとはいえ外観から非常にわかりやすい。教会に隣接して1530年から90年にかけて建てられた鐘楼がある。教会内の多くの芸術作品の中では、教会の建築様式および時代と結びついていることもあって、ジョヴァンニ・ペリーニの聖画(1513年)とセバスティアン・デル・ピオンボの聖画(1509-11年)、トゥッリオ・ロンバルドの大理石のはめ込み模様(1500-02年)がとくにあげられる。

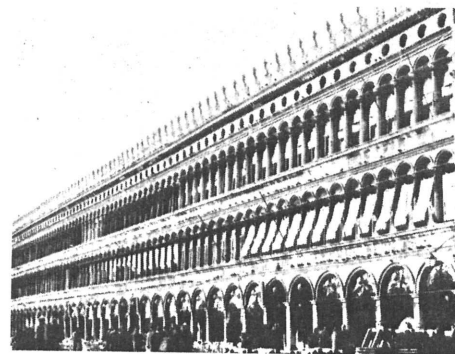
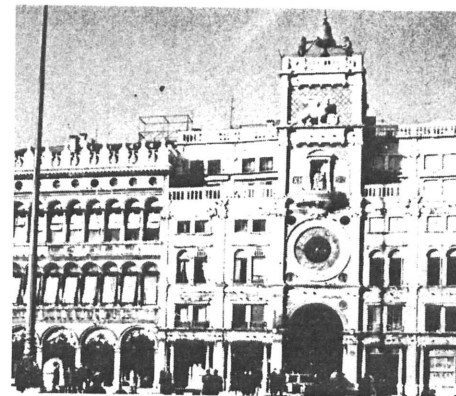


3聖人の聖画「サン・ジローラモ」の部分。サン・ジョヴァンニ・グリゾストモ教会, ジョヴァンニ・ペリーニ, 1513年



44

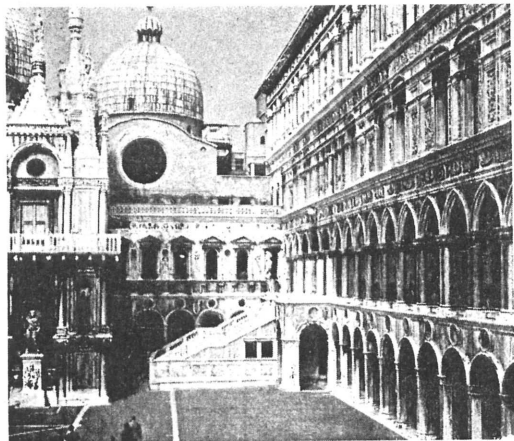
サンタ・マリア・フォルモーザ教会, M. コドゥッチ, 1492年 Santa Maria Formosa
伝承によると7世紀に創設され、11世紀に建て直され、1492年にM.コドゥッチによって再建された。現在のギリシャ十字式プランは、おそらくサン・マルコ寺院から着想を得た前の教会から踏襲したもので、サン・ジョヴァンニ・グリゾストモ教会(43)にも適用されているようにコドゥッチが好んで使用したプランである。教会と鐘楼(1611-88年)の都市的位置は、広場と運河を考慮にいれている。また、プランとアプスの大きさはサン・ジャコモ・ダローリオ教会のものと同変似している。内部は簡素な構成とはいえ、ルネサンス建築にはまれな明快な分節と遠近法的複合性をもっている。2つのファサードは次の時代のもので、運河に面するファサードがサンソヴィーノ派(1542年)によって、広場側は1604年に整備された。内部の芸術作品では、バルトロメオ・ヴィヴァリーニの3連祭壇画(1473年)とバルマ・イル・ヴェッキオの聖バルバラ(1509年)が特筆に値する。



45

旧行政館と時計塔, M. コドゥッチ, B. ボン, G. デイ・グリージ, 1496 - 1532年 Procuratie Vecchie Torre dell' Orologio

旧行政館はサン・マルコ広場の北翼にあり、M. コドゥッチによって1500年に2階のロジヤまで建設され、1512年にB. ボンとG. デイ・グリージによって続行され、1532年にJ. サンソヴィーノによって広場の奥まで完成された。1階に50のアーチをもち、2階にその2倍のアーチが対応している柱廊(ポルティコ)の連続は、先のヴェネト・ビザンチン様式から導入され、ルネサンス様式の優雅さをもって軽やかにリズムに繰り返されている。1496年から1499年に建設された時計塔もM. コドゥッチの設計で、両翼は1500年-1506年にP. ロンバルドによって建設され、1755年にG. マッサイによって増築された。小広場から眺めると焦点にあたる位置にある優雅なこの時計塔は、1497年に有名な「ムーア人」の鐘つき像が屋上にのせられ、1499年に正面に、これもヴェネト・ビザンチン装飾を再生するルネサンス様式の鍵である多色、金色の装飾が施されて完成した。

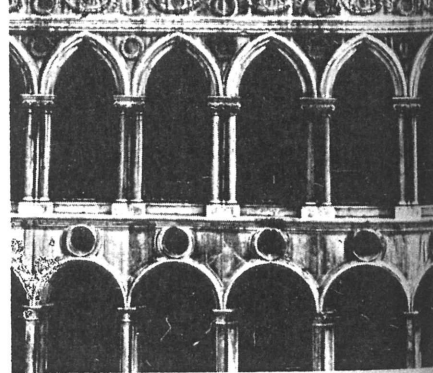
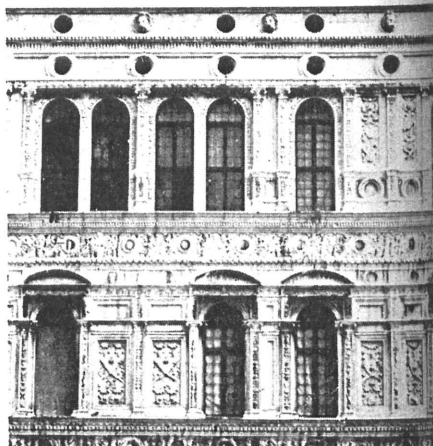


a

50

総督宮殿，ルネサンス部分，A. リッツォ，P. ロンバルド，G. スバヴェント，A. スカルパニーノ，J. サンソヴィーノ，A. パラーディオ，A. ダ・ポンテ，1483-1577年 Palazzo Ducale Parte rinascimentale

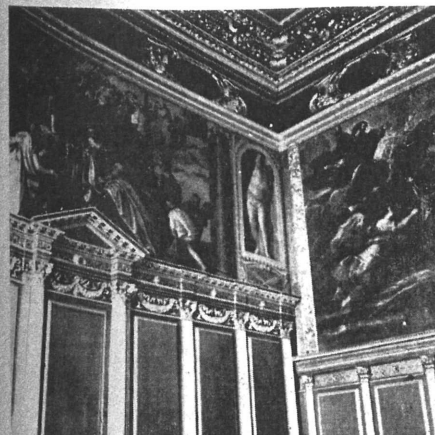
ゴシック部分とルネサンス部分にはあまり連続性はないが、2つの様式の接点として考えられているのが、布告門（ボルタ・デッラ・カルタ）と巨人の階段の間に象徴的につくられたフォスカリのアーチである。1483年の火事後、荘厳で装飾的な東の翼は、中庭とパラッツォ運河の間に完全に再建された。アントニオ・リッツォがまず建設を担当し、ジョルジョ・スバヴェントとスカルパニーノとよばれたアントニオ・アボンディが続行した。ロンバルド一家のピエトロ・ソラーリが装飾に協力して、この翼の工事は1550年から1560年の間に終了した。同じ頃、優雅な元老院の小さな中庭を構成している、凝った装飾のリッツォによる巨人の階段とスバヴェントのプレガディ翼ができた。サン・マルコ寺院の背後の運河にそって、総督の居室や聖具室（1486年）、16世紀初期の珠玉の建築、スバヴェントによるサン・テオドロ小教会が続いて建設された。次の時代には有名なサンソヴィーノによる黄金階段（1559年）、1574年と1577年の火事後、A. ダ・ポンテにより再建され、パラーディオによってインテリアがデザインされた「4つの扉の部屋」、「謁見控えの間」、「コレジヨの間」などの内部の部屋がある。17世紀初期の建築としては、1602年に取り壊された外階段の場所に建てられたフォスカリ翼、G. マノーボラの時計塔のファサード（1603年-14年）、中庭の南側と西側を巡る柱廊、総督宮殿と新しい牢獄を結ぶA. コンティーノによる「ため息の橋」（71）などがある。



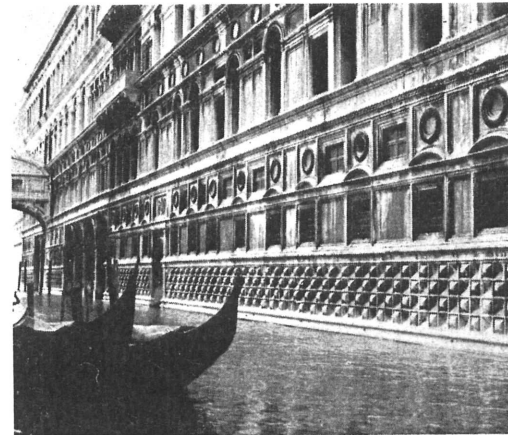
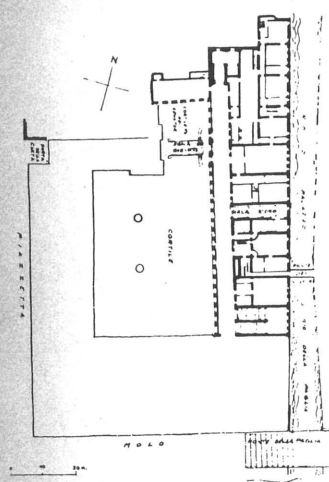
b



c



d



e

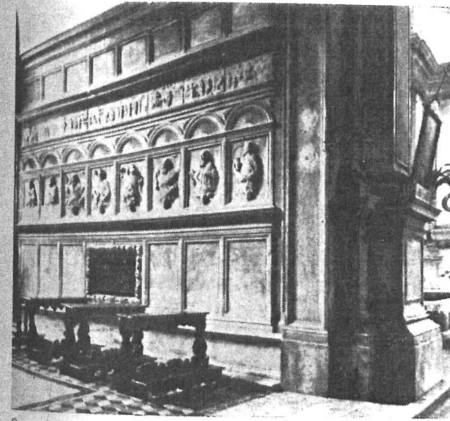
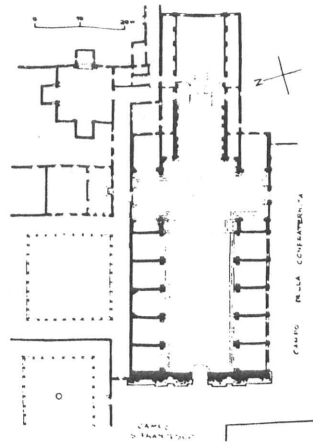


f

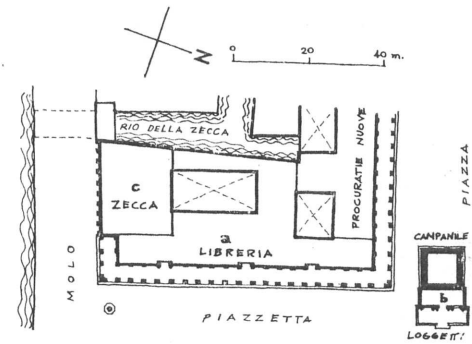
- a) 総督宮の中庭。巨人の階段
- b) アントニオ・リッツォの東の翼
- c) 巨人の階段にある「勝利の女神」の一部、アントニオ・リッツォ 1486-96年
- d) コレジヨの間
- e) リオ側の翼
- f) 総督宮のリオ側の香部屋のファサード。スバヴェント



a



c



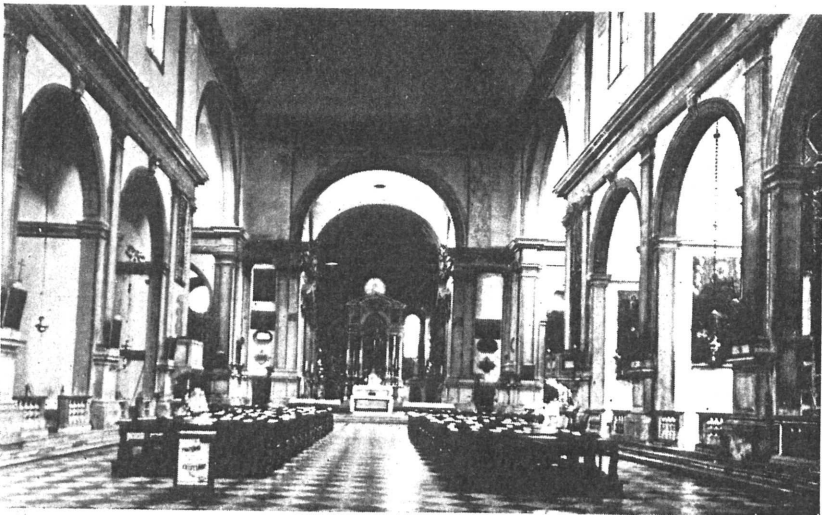
60

サン・フランチェスコ・デッラ・ヴィーニャ教会、ヤコボ・サンソヴィーノ、1534年、アンドレア・バラードイオ、1568 - 72年 S. Francesco della Vigna

最初の教会は、伝説によれば、アクイレイアから福音史家聖マルコの遺体が到着したことを記念する小教会があった所に、1253年に建てられた。現在の教会は1534年にヤコボ・サンソヴィーノの設計によって、建設が始められた。モニュメンタルなファサード (a) は1568年から172年にかけてアンドレア・バラードイオのデザイ

ンのもとに遂行され、これはレデントーレ教会は別として現存する唯一のバラードイオのオリジナルのデザインによるファサードである。この教会は三角の破風のある中央部、勾配のある両側壁と共に、簡素な台座の上に建ち上がり、内部の構成を一貫性をもって映しだしている。このファサードは18世紀末までの多くの教会のモデルとなった。教会のプランはトスカーナの影響を受け、ラテン十字形で側面に5つの礼拝堂が並ぶ身廊をもつ。内陣と聖歌隊席はかなり奥にあり、多分古い教会の位置にしたがったものであろう。内陣の左側には1478年に建

てられたジュスティニアニ礼拝堂 (c) があり、貴重なロンバルド様式の彫刻が収められている。幾何学的純粋さをもつ内部は (b) 均整がとれ、異例の構成力のある空間的広がりをもっている。その平面の形式は、ルネサンスの哲学である幾何学的完璧さの原理にかなった、わずかに残されたものの一つである。北隣には中世のシンプルな形の修道院回廊が広がっている。南側においては、様々な時代の建物に囲まれた広場が、なかなか興味深い。そこには1581年の鐘楼のある教会に加え、かつてローマ法王大使の住居だったバラッツォ・グリッティ (1525年) や、17世紀の聖痕のオラトリオ、A. ビガッツィによって19世紀中頃に建設された、バラードイオの影響が見られる柱列の上の渡り廊下がある。



b

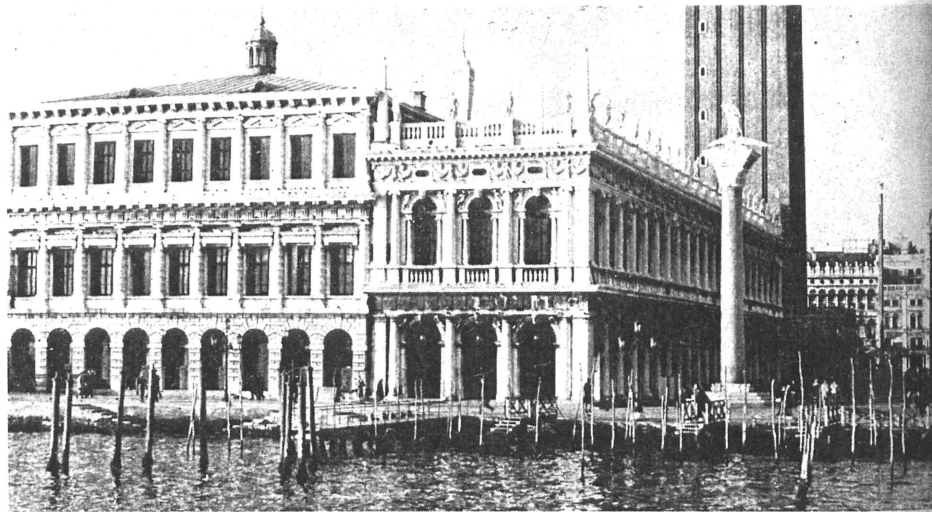
61

図書館、造幣局、ロジエッタ、ヤコボ・サンソヴィーノ、1537 - 84年 Libreria, Zecca, Loggetta

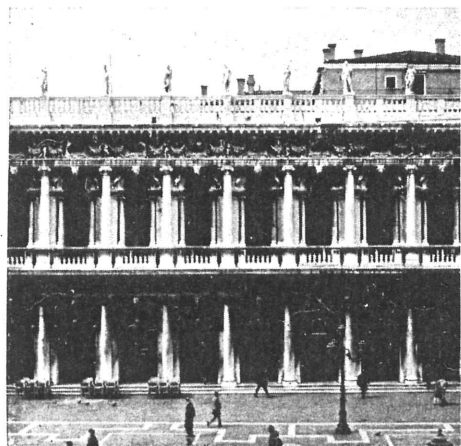
図書館 (a/b) はサンソヴィーノがヴェネツィアで実現した中で一番美しい作品である。低層で21のアーチが並ぶ横長の建物であり、1階にトスカーナ式、2階にイオニア式のオーダーをもつ。上部には手摺と彫像がついている。これはかつてサン・マルコ広場を囲んでいたヴェネト・ビザンチン様式の古い建物のプロポーションと似ているが、ここではほとんどバロック様式のように豊かで量感のある新しい形式になっている。

ベッサリオネ枢機卿により寄贈された貴重な法律集を収めるために、1537年に建設が始められ、1545年のヴォールトの落下事故によって一時中断したが、小屋組みによる屋根にかけ替えられた。1554年に鐘楼から16のアーチまで完成し、スカモッツィが1583年から1588年にかけて岸辺方向へ工事を続けた。11番目のアーチにある名譽の入口は、女身像柱が並ぶ大扉からモニュメンタルな階段を通り、上階の部屋へ達する。1597年にヴィンチェンツォ・スカモッツィによって改築された「玄関ロビー」は中央にティツィアーノの「英知」が描かれている装飾的な天井をもつ。ヤコボ・ティントレットによる哲学者たちの肖像画が壁に飾られた「黄金の間」の天井には、パオロ・ヴェネローゼを含む7人の画家の作品が描かれている。現在はここには初期のミニチュールと初期刊本の豊富なコレクションが収められ、その中には有名な「グリマーニ聖務日課書」とフラ・マウロの平面天球図が含まれている。

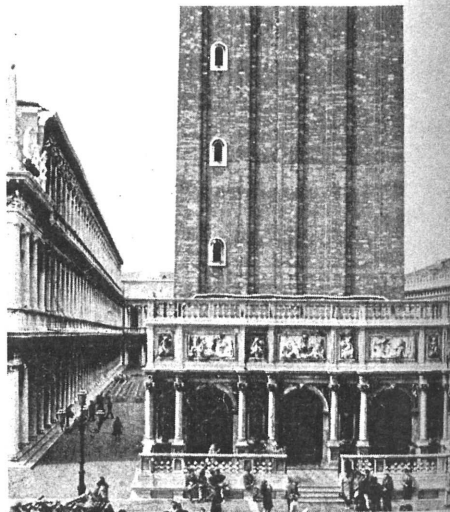
造幣局 (a) は1277年からサン・マルコ広場にあり、ヤコボ・サンソヴィーノのデザインの現在の建物は (1



a



b



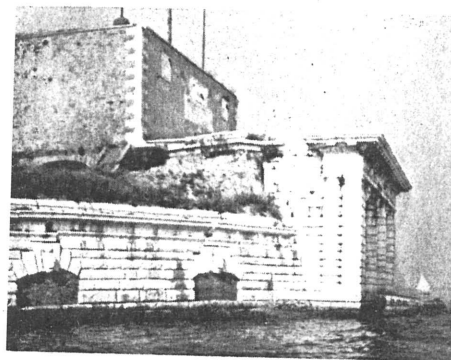
c

537-45),当初は2階建てで、1階は切り石積みで、2階はトスカーナ式の半円柱がついていた。後に同じサンソヴィーノによってイオニア式半円柱の3階部分が増築された。1905年に国立マルチアーナ図書館が整備され、17番目のアーチにあるヴィンチェンツォ・スカモッツィのデザインによる男像柱の並んだ玄関から入る。造幣局の建築は堅固で重厚で、ラグーナに面するファサードにしても、中庭(現在は読書室)に面する部分にしても、ほとんど軍事施設のようなものである。この中庭には、かつて美しい井戸貯水槽があり、現在はカ・ペーザロに置

かれている。ロッジッタ(c)は15世紀に鐘樓の基部に「貴族のサロン」として木の小屋や店に替わって築かれたが、1537-49年にヤコポ・サンソヴィーノによって再建され、1569年に大評議会開催中の海兵の警備所になった。1663年にテラスと石の手摺を加えて改築された(青銅の小扉は1735年から37年)。同じサンソヴィーノ作のブロンズの寓意像と女神像の壁龕のある上品なこの小建物は、1902年の鐘樓の崩壊と共に破壊されたが、1912年に元の建材によって再建された。

ミケーレ・サンミケーリ Michele Sammicheli

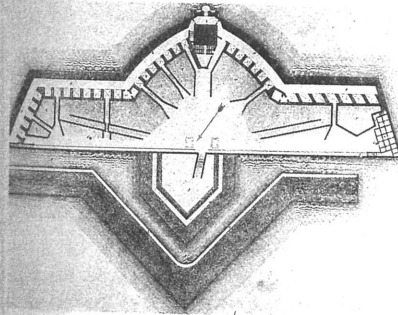
ミケーレ・サンミケーリ(ヴェローナ1484年-1559年)は、世俗建築と軍事施設を手掛けた建築家で、ヴェネト地方の建築界で最も重要な人物であった。サンミケーリは1500年から1519年までローマで、その後1520年までヴェローナで活動し、そこでカノッサ、ポンペイ、ペヴィラックアなどのバラツォと、バリオ門を建設した。1535年からヴェネツィアに移り、共和国のために、サンタンドレア要塞の他に、コルフやカンディアにも要塞を築いた。サンガッロのもとでの経験、古いモニュメントについての研究、そして特に軍の施設建設の経験により、サンミケーリは着想の堅固さと、真のモニュメンタルな効果をもつまでに至る機能的な簡潔さを獲得している。ヴェネツィアでは、サン・ポーロのバラツォ・コルネールの落ち着いた建築や、大運河沿いのバラツォ・グッソーニ・グリマーニ・デッラ・ヴィーダのより洗練された建築から、バラツォ・グリマーニの豪華な構成にまで到達する。ここではプロポーションの壮大さは、彫塑的な明暗の対比の緻密な効果をもつ、モールドディングの共鳴するコントラストによって、緩和され、いわばヴェネツィア化されている。おそらくサンミケーリはヴェネト地方出身なので、サンソヴィーノより古典建築の原理をヴェネツィアに適応させるのに成功している。



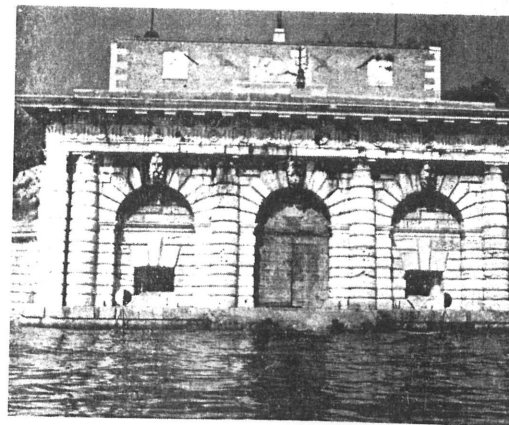
62

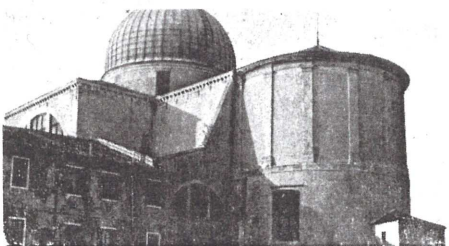
サンタンドレア要塞, ミケーレ・サンミケーリ, 1543年 Forte di Sant' Andrea

「新しい城」とも呼ばれるサンタンドレア要塞は、リド島のサン・ニコロ港を防衛するヴェネツィア共和国の軍備の一部である。事実この「新しい城」の前には、今は消滅しているが「古い城」があり、両者の中央に大砲を装備した平底船に支えられた鎖の封鎖線があった。サンタンドレア要塞は1543年にミケーレ・サンミケーリによって建設され、レバントの海戦(1571年)の後まで増築工事が行われた。この要塞は水面ぎりぎりのレベルに砲口のあるアーチをもつ稜堡で構成され、中央には堅固な小塔があり、その前には、トリグリフのついた堅固なアーキトレーブをもち、トスカーナ式の切り石積みの半円柱で3分割された、一種のプロナオス(列柱のある前室)がある。これは軍事専用の建築作品にモニュメンタルな表情を与えている。機能と一致しながら、この建物は構造的に統一された方法で、またゆったりとした構成をもって、全体がつくられている。



サンミケーリによるサンタンドレア要塞の平面図



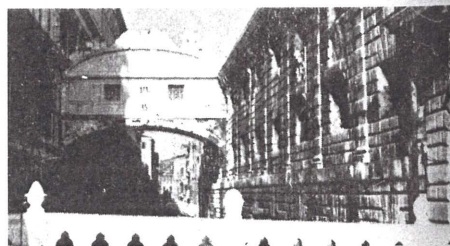


69

サン・ピエトロ・ディ・カステッロ教会, F. ズメラルディ, A. グラピーリア, 1596-1619年
San Pietro di Castello

旧名オリーヴォロといわれたこの島には、すでに7世紀には聖セルジョと聖バツコに捧げられた教会があった。何度も再建され、ここにヴェネツィアの司教座が置かれた。1451年に、グラードの大司教がヴェネツィアの総大司教に転じ、この教会は1807年にサン・マルコ寺院

(4) に総大司教座が移るまでヴェネツィアの大聖堂であった。現在の教会は1596年にフランチェスコ・ズメラルディによって、先のパラディオのモデルを踏襲しながらファサードから建て始められ、1619年にG. グラピーリアによって引き継がれた。ファサードはレデントーレ教会(67)に似ているが、三廊式の身廊とドームの載った翼廊はサン・ジョルジョ島の教会を、より思い起こさせる。教会の横には16世紀のシンプルな柱廊つき中庭がついた大司教館があり、1807年からは兵舎であったが、現在は荒廃している。広場の離れた所に、1482年から1488年にかけてM. コドゥッチによって再建された優雅な斜塔があり、昔はドームが載っていたが1670年に壊された。ヴェネツィアで最も美しく、均整のとれた鐘楼のひとつである。



70

牢獄とため息の橋, ダ・ポンテ, コンティエーノ兄弟, 1565-1614年 Le Prigioni e il Ponte dei Sospiri

この牢獄はそれまで総督官殿にあった共和国の牢獄を拡張するために、スキアヴォーニ岸を望む、市民が夜警の任務についていた最も古い司法官「夜の刑吏」の部屋に、16世紀末に建設された。総督官殿を拡張する必要性から、有名なため息の橋を渡った所につくられている。1563年にジョヴァンニ・アントニオ・ルスコーニによって内部から開始され、1589年からアントニオ・ダ・ポンテに引き継がれ、1614年に彼の二人の甥、アントニオとトマゾ・コンティエーノによって完成された。運河に面するファサードは付柱と切り石積みで作られ、シンプルで力強い、スキアヴォーニ岸に面する主要部は、背後にある部分とはあまり一貫性がない。ポルティコと上階の部屋で構成され、堅固で落ち着いた外観を見せ、大きくリズムミカルな開口部が、サン・マルコ広場のさらに古い建物の調子を継承している。ため息橋は1600年にアントニオ・コンティエーノによって作られ、バロックの新鮮な湾曲した形がここでは自然に用いられ、水の上の空中にかかる橋によく合っている。



リアルト橋にある「受胎告知」の浮彫り。A. ルビーニ, 1590年

71

リアルト橋, アントニオ・ダ・ポンテ, 1588-91年 Ponte di Rialto

リアルト橋は19世紀まで何世紀にも渡り、大運河を渡る唯一の歩道橋であった。もともと12世紀に小船を繋いだ橋はあったが、12世紀中頃から木のはね橋になった(カルパッチョの有名な絵に見ることができる)。何度も再建、修復され、最後にG. スパヴェントによって1501年に修復された。1524年に石で建て換えることになり、ミケランジェロ、パラディオ、ヴィニョーラ、サンヴィーノ、ダ・ポンテ、スカモッツィ、その他の設計案が提示された。その中からアントニオ・ダ・ポンテ



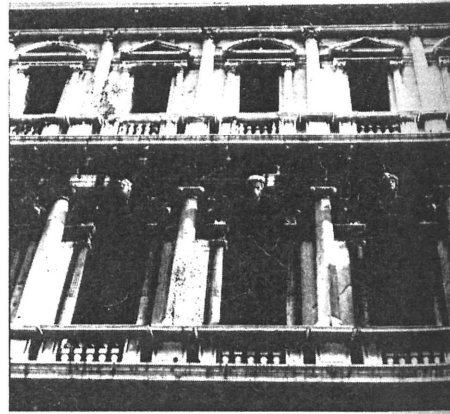
が甥のアントニオ・コンティエーノの協力を得て、1588年から1591年にかけて工事を完成させた。橋は28mのアーチでひとまたぎで架けられ、24mの幅広い橋上には、12のアーチがついた2列の店舗が、2つの中央アーチを挟んで並んでいる。2列の店舗の間とパノラマの開ける両側に、計3本の歩道ができています。全体には落ち着いたものがある壮大な建築物になっている。いずれにしてもその価値は形態に内在するものを越えている。事実リアルト橋は今やヴェネツィアの景観と環境と切り離すことができないどころか、水陸両方の通行が可能で、類まれな都市形成のシンボルとして見なされている。



72

バラッツォ・バルビ, A. ヴィットリア, 1582-90年 Palazzo Balbi

大運河の「曲り角」というもっともよい場所に立つこの豪華なバラッツォは、ニコロ・バルビのために1582年から1590年にかけて、建築家としてよりも彫刻家として有名なアレッサンドロ・ヴィットリアによって建設された。平面プランとファサードはまだ伝統的な3列構成だが、彫塑的で古典的形式から自由な形態をとる新しい美的感覚が様々な細部に表れている。すなわち多くの付柱や開口部の間の四角い部分、窓と両横の突き出た入口の上の破風飾り、窓のまわりと三角の破風に貫入したアーチをもつ中央玄関の上の巻き状装飾および渦巻形装飾、面脇にある一族の紋章、軒蛇腹の下の「楕円形」の窓などがそれである。これらのモチーフは一部はサンソヴィーノの作風からもたらされ、後にロンゲーナによってバロック時代に発展することになる。



73

新行政館, V. スカモッツィ, 1586-1616年, B. ロンゲーナ 1640年 Procuratie Nuove

新行政館はサン・マルコ広場の南側部分を占め、サン・マルコの9人の行政官のために、中庭に面して9つの住戸に分かれていた。ヴェネト・ビザンチン様式の建物で1582年に取り壊されたオスビーツィオ・オルセオロがあった場所に、ヴィンチェンツォ・スカモッツィの設計により、1586年に鐘楼寄りの10のアーチから建て始められた。スカモッツィの死(1616年)後、バルダサレ・ロンゲーナによって1640年に引き継がれ、彼がサン・ジェミニアーノ教会(1810年に取り壊された)までのびる7つのアーチを含み、広場の奥まで完成させた。新行政館の建築は、サンソヴィーノの図書館のモチーフを取り入れているが、一階分を増築しているため、多少異なる建築になり、カリタ修道院のパラーディオの翼(65)を思い起こさせるが、ここではむしろ完全なバロック様式をとり、よりモニュメンタルで装飾的な特徴を備えている。ロンゲーナが後に加えた最上階の彫刻的な装飾のない部分の方が、スカモッツィの建物よりパラーディオ的になっているのは意義深い。16世紀の図書館、16世紀と17世紀の新行政館、19世紀初めのナポレオンの翼というように、異なる形式とはいえ3世紀に渡ってヴェネツィアでは、どれだけ変化の少ない同じタイプの建築が建てられているのかをみることは興味深い。

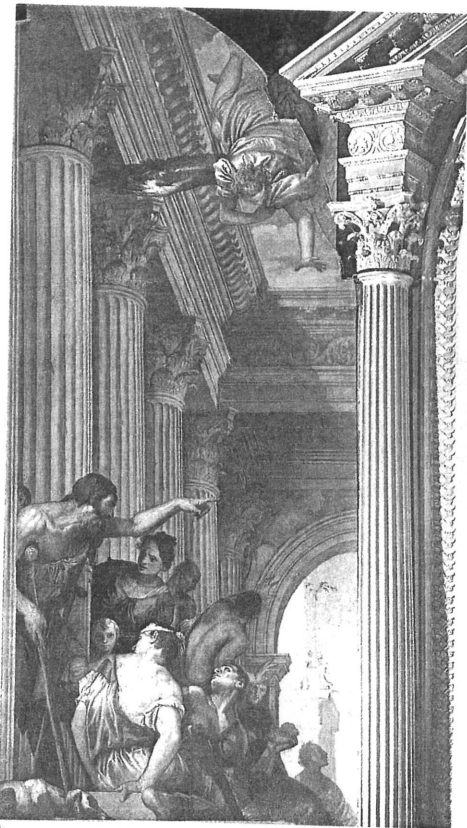


a

74

サン・セバスティアーノ教会, A. スカルパニーノ, 1505-48年 フレスコ画, ヴェロネーゼ, 1555-65年 S. Sebastiano

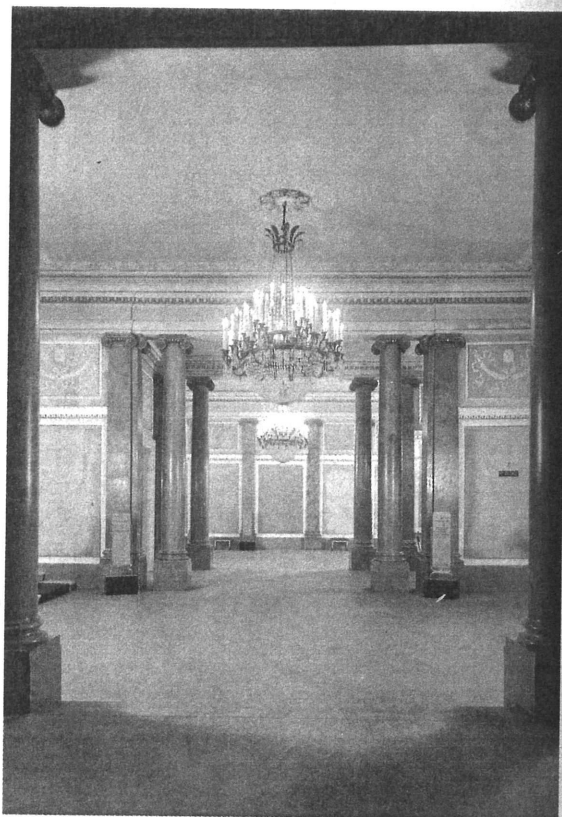
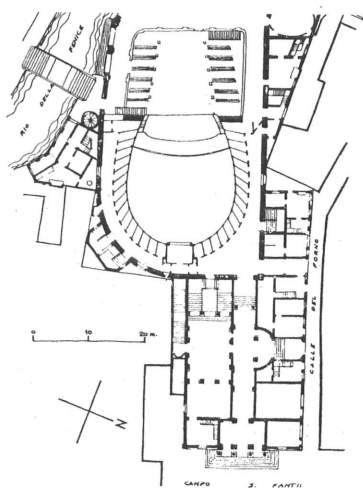
この時代の精神を表す古典的なシンプルな建物だが、内部は、側廊に広がる大きな吊り聖歌隊席の存在と、特にパオロ・ヴェロネーゼが1555年から1565年の10年間描いた壮大なフレスコと絵画の装飾によって、のびやかでモニュメンタルな空間を獲得している。サン・セバスティアーノ教会は、ヴェネツィアの発生以来の典型的伝統である、絵画、建築、彫刻などの芸術が統合された最も華麗な例である。実際この教会は、ヴェロネーゼによって「だまし絵」の手法で描かれたロジリア、ねじれた円柱、ニッチ、彫刻などからなるフレスコ画の建築を集めるために考えられたように見える。聖歌隊席のフレスコ画は聖セバスティアーノの殉教の場面を描いている。天井と内陣の絵画、パイプオルガンの扉の絵もヴェロネーゼ作である。(ほとんど世俗的な古典主義ともいえる優雅な同様の精神で、聖歌隊席を飾る二体の巫女と受胎告知のスタッコ彫像がつくられているが、これらはもう一人のヴェローナ出身の芸術家ジローラモ・カンバーニャ(1582年)の作品である。この教会は、ヴェロネーゼが同年に壁画を描いたヴィッラ・ディ・マゼールへの立派な序曲といえる。



b

a) サン・セバスティアーノ教会。ヴェロネーゼのフレスコ画のある聖歌隊席

b) オルガンの扉の「生け贄を洗う泉」、1555-65年

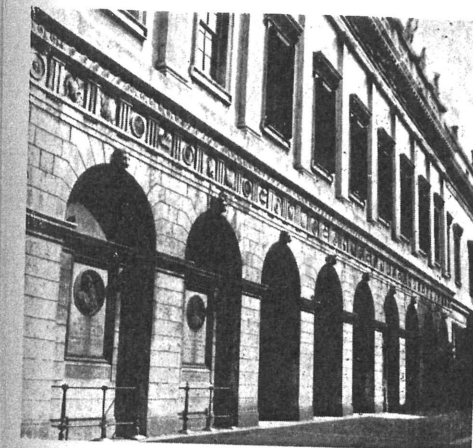


94

フェニーチェ劇場, G. A. セルヴァ, 1790 - 1792年 Teatro "La Fenice"

ヨーロッパで最も有名な劇場の一つで、ジャン・アントニオ・セルヴァの設計によって1790年から1792にかけて建てられた。1836年に火災で壊れた後、セルヴァの弟子であるトマゾとジャンバッティスタ・メドゥナ兄弟によって忠実に再建された。1937年にはキノ・バルバンティーニによって家具備品と舞台装置一式が作り直された。この劇場はサン・ファンティン広場とヴェローナ運河の間の土地条件にたいへん巧妙に適應して建っている。かなり複合的で、1500人収容の馬蹄形の大劇場のま

わりに、列柱玄関ホール、美しい「アポロンの間」を含むいくつかの小部屋、階段などがある。円柱のついた小さなプロナオスのある広場側のファサードと、アーチのポルティコがあるリオ側のファサードは大変簡素にできている。それと反対に劇場内部は、新古典主義の形態の範中とはいえ、対称でモニュメンタルな図式から開放された自由なプランと空間で構成され、機能主義の比類のない先駆的な例を示している。このことは、同時代の建築界の閉鎖的な環境からは理解しがたいことであり、批判を生んだに違いない。

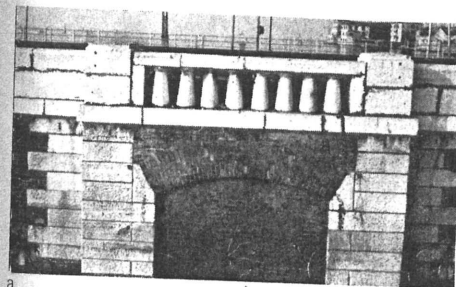
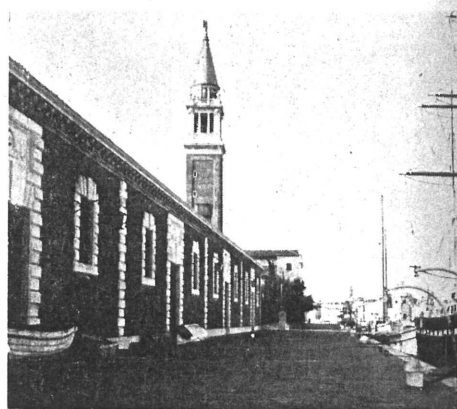
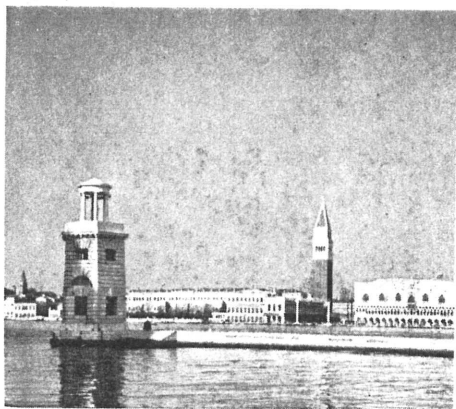


95

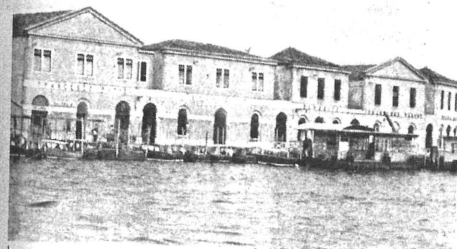
ナポレオン翼, サン・マルコ広場, G. アントリーニ, G. M. ソーリ, L. サンティ, 1810 - 1815年 Ala Napoleonica, Piazza San Marco

ナポレオン翼はサン・マルコ寺院の向かい側の、広場の一番短い部分を占め、以前はサンソヴィーノのサン・ジェミニアーノ教会を中心に、その右側には旧行政館が、左側にはアーチ7つ分の新行政館が建っていた。これらの建物は、新行政館に置かれた王宮の舞踏室を作るために1807年から1810年にかけて取り壊された。ナポレオン翼はミラノ人ジョヴァンニ・アントリーニによって建設が開始され、1810年から、エミリア地方出身のジュゼッペ・マリア・ソーリに引き継がれ、1815年の修復工事の後、シエナ人ロレンツォ・サンティによってこの作品が完成した。広場に面するファサードは、新行政

館のアーチと同じモチーフを受け継ぎ、3階はレリーフで飾られた高い屋階に置き換えている。反対の広場の入口側のファサードは、明らかにバラディオを受け継ぐ新古典主義の形態を見せている。1階のポルティコは新行政館と広場の空間を心地よく結び、一方旧行政館はここからは切り離されている。ポルティコから、モニュメンタルな大階段を通り、四角い前室のある大舞踏室へと到達する。楕円形のギャラリーが壁の上部を巡る豪華な迎賓の間は、ストラのヴィツラ・ビザーニのような17、18世紀の様式をモデルとするが、建築的に、またスタッコ、金箔、単彩色、フレスコなどの装飾の面からは、19世紀初頭のヨーロッパの宮廷に広まった洗練された様式の典型を示す。



a



b



c

96

サン・マルコ広場沖, 19世紀前半における新古典主義の作品 Bacino S. Marco

サン・ジョルジョ島の新古典主義による三度目の改造(最初は15世紀から16世紀,二度目が16世紀から17世紀),1791年にポローニャ出身のベナデット・ブッラーティによる鐘樓の改築から始められた。鐘を吊す部分の優雅なラインと尖塔(円筒形,角)の幾何学的にもっともシンプルな形態が,近代のムーブメントに1世紀以上も先んずる,このような様式の国際的潮流の,ヴェネツィアにおける始まりとなった。ベネディクト修道院は1806年に廃止され,1800年にはコンクラーヴェ(教皇選挙枢機卿会議)の本部となり,ここでピオ7世が選出された。1810年にこの島が自由港に指定されたため船だまりが建設され,向かいあう2つの塔と建物が

1810年から1815年にかけてジュゼッペ・メッザーニと弟子のセルヴァによって建てられた。入念な建設技術で建てられた岸に沿った低い建物は,近くにあるもともとあった古い建物と伝統的に混和している。一方,機能的必然から作られた船だまりは,建築的にも都市計画的にも革新的であり,輝く水上に清廉なラインを示す開かれた空間である。これがこの島の建築をうまくまとめ上げ,サン・マルコ広場沖の空間にも統一をもたらしている。対岸に別の新古典主義の建物がある。それらは,同時代の王宮小庭園の岸辺に1839年頃,ロレンツォ・サンティによって建てられたカフェ,1855年にジョヴァン・アルヴィーゼ・ビガッツィによって再建された税関の新しい倉庫とザッテレの塩の倉庫である。

97

19世紀の橋頭堡 Testa di Ponte Ottocentesca

19世紀中頃の鉄道橋の建設は,ヴェネツィアと本土間を初めて陸の交通機関で直接結び付けるものとなった。この連絡は,それまで海に向かって南にあった到着時の主要玄関を,今度は逆に本土に向かう北側に置いたため,ヴェネツィアの都市構造を決定的に変えてしまった。こうしてヴェネツィアの北のゾーンに一種の橋頭堡の建設が始まり,いまだに整備が続いている。建物が取り壊され,運河が埋められ,新築工事が行われた。壊す必要のなかった建物もあり,パラディオの大運河に面したサンタ・ルチア教会などはその例である。新しい建造物として,鉄道橋の他にほぼこれと同時代の,際立つて機能的な性格をもつ2つの作品,市営屠殺場と大運河の末端にある倉庫群がある。また旧駅舎と大運河にかかる橋も,鉄の建築の興味深い例であったが後に取り壊された。

a) 鉄道橋, T.メドゥーナ, 1841-46年 トマゾ・メドゥーナがレイジ・ドゥオードの協力で設計した鉄道橋は,アントニオ・ペトリチによるミラノ=ヴェネツィア間の鉄道建設を完成させる目的で,1841年から1846年にかけてつくられた。しかしこのミラノ線は1857年まで出来上がらなかった。この橋は,ヴェネツィア市のサン・ジョッペ=サンタ・ルチア地区と,本土側の19世紀のもう一つの興味深い作品マルゲーラ要塞の近くのサン・ジュリアーノ岬の間を結び,ラゲーナ上に3.5kmにわたって架かっている。この橋はイストリア産の石のアー

チの橋げたでつくられ,一定の間隔で横に待避所がとられている。アーチと手すりの石の切り口は,熟練した腕と新古典主義の好みを見せている。しかしこの作品の重要性は建築的価値以外にあり,その合理的な機能性の点で,この橋はヴェネツィアにおける19世紀の建築のなかで価値ある数少ない例として評価できる。

b) 大運河沿いの倉庫群 今なお通過商品の保管庫として使用されているこれらの倉庫群は,おそらく1800年代の中頃から1880年の間に,「海のステーション」がジュデッカ運河に面したサン・バジリオと大運河に面するサンタ・ルチアの間で完成した時に,建設された。倉庫群は,その功利的な外観にもかかわらず,シンプルな形態とリズムカルなヴォリュームの配分をもち,屠殺場と同じ様に,新古典主義の伝統文化を近代建築の機能的な特徴と結びつける,一つの建築文化の在り方を示している。

c) 市営屠殺場, G.サルヴァドーリ, 1842年 市営屠殺場は1842年に,建設局の主任でサン・ジョヴァンニ・グリゾストモ劇場(現在はマリブラン劇場)も設計した,ジュゼッペ・サルヴァドーリによって建設された。屠殺場は多くの小さな平屋の施設で構成され,それらはお互いに繋がっている。カンナレージョ運河とラゲーナの間で合理的に整然と,楕形に並んでいる。かなり入念に仕上げられたファサードは新古典主義のシンプルな形をもつが,平面的にも立体的にも簡潔な構成が全体に驚くべき近代性を生んでいる。